

亞東新丁時報

CORREO
ARGENTINO
FRANQUEO PAGADO
CONCESSION NO. 953
TARIFA REDUCIDA
CONCESSION NO. 719

發行所亞爾新丁時報社
ブエノス・アイレス市
ウスバリアタケル九八一
電話(二三)七〇五一
傳讀月額二千五百五十
Director:
T. MIDZUNO
REDACCION:
Uspallata 981
U. T. 28, 7041

ニユーギニア島の敵軍損害大 アドミラルチー諸島激戦展開

【東京十一日】大本營三月十一日十六時三十分發表
一、ニューギニア島におけるその後の戦況次の如し

イ、昨年末、フィンシヘン附近のカラサ西北方に集結中なり。しかばねは部隊は爾後殆ど敵の砲攻をうけることなくマダン南方に撤收せり、さらにクレンチ岬の北方に集結中なり。しかばねが部隊はマダン南方に撤收せり。

ロ、クレッチ岬よりマダン南方に集結收容整備中なり。しかばねが部隊は同地の敵に大なる損害を與えつゝあり。

ハ、該方面における月初頭より現在までに判明せる戦果次の如し

敵に與えたる損害人員約四千(内遺棄屍體一千八百)飛行機墜落三百八十一機魚雷艇撃沈破十二隻。

我方損害戦死及び戦病死者約九百五十名、飛行機八十八機

二、有力なる敵部隊は二月十九日アドミラルチー諸島中のロスネグロス島に上陸爾後逐次兵力を増強しつゝあり、同島のわが守備部隊並に航空部隊はこれを邀撃連日激戦展開中なり。

印緬國境全面的に新作戦開始

皇軍部隊各所に敵撃破猛進中

【ビルマ前線基地十一日】ビルマ方面のわが精銳諸部隊はさきに英印軍第七師をシン

ジエラ盆地に殲滅し、さらにカラダム河より邁行アラカン山系を背後に出来し來つた

西アフリカ軍に猛攻撃を浴せて敵を隨所に擊破して潰亂状態に陥らしめてゐるが、英

印軍はまた中部印緬國境のチエン丘陵に出撃し漸次その兵力を增强中なりが、我軍は敵の野望を挫かんと突如二月〇日折柄の月明を衝いて〇〇方面より勇躍進軍を開始した

破竹の勢を以て進撃中のわがワイト正面より進發して早く周章狼狽はその極に達して於て殲滅次いで西アフリカ

部隊はカラダム河渓谷よりアーヴィングを突破し、カガボン、バラン、今やチエン丘陵一帯は敵砲をカラダム上流に殲滅せん

ルゼン西方に突入し、ヘビーパーク其他數々と繋ぎ渡り敵軍を壓し、五ヶ所を奪取して同地四方の五

ヶ所を占領してゐる。一方兵勢を減じて早速周章狼狽はその極に達して於て殲滅次いで西アフリカ

部隊はカラダム河渓谷よりアーヴィングを突破し、カガボン、バラン、今やチエン丘陵一帯は敵砲をカラダム上流に殲滅せん

國民日本歴史

[47]

高橋俊乘

トヨタケル

維持費特別寄附御禮廣告(第三回)

今般本會經營ニスキニ班養所維持費として多額の御寄附にあづかり御蔭様で要應せられた事態に對處し得らるゝこととなり洵に有難く以紙上深謝申上候
三月九日

社團法人在亞日本人會

寄附者各位

(寄附者芳名(略敬稱))

(コルドバ日本人會)

貳拾鶴宛

山岸新作

上原清

次大城守一

大城吉義

比嘉徳榮

玉城繁

上原

比嘉徳榮

玉城繁

上原清全

大城定榮

古波茂森次郎

比嘉徳榮

吉良里政康

城間兵吉

コルドバ青年會

比嘉徳榮

大城信光

比嘉徳榮

上原

比嘉徳榮

玉城繁

上原

仁知金福盛 上原德藏
平良賀名 玉城仁孝 知念
鷺吉 大城信吉 宮里政康
清正與那原繁 上原清全
大城定榮 滝富太郎 館平知
城間兵吉 比嘉徳榮 舟間豊雄
拾五郎 大城信光 比嘉徳榮
拾五郎 「永木清治一同溝貞」
七鶴 山口武雄
拾鶴宿 堀江吉助 大山盛徳
五鶴宛 古波茂森次郎 仲宗根正吉
孝三 賀敷安保 照屋鶴助 幸手刈盛助
宇野悟郎 西銘正恒 新屋敷平吉
貝原慎七 大城久一 玉城
森田耕一 國分鐵藏 大島俊一
潮尾和太郎 片山良平
宇都宮格 山元 潤

菊浦吉 大庭松栄 鶴瀬穎
山形木吉 池田勝雄
田港朝全 上原清森
國春 須徳三郎 比嘉榮雄
中尾藤九郎 比嘉秀信 榎田良
高屋廣 荣高屋松栄 玉城
孝元 安里榮鶴 勝連博吉
雄名護景一 玉城成徳

三鶴 玉城繁

鉢木武記 玉城昇 森田良

榮高屋正雄 大島俊一

忠臣 比嘉徳榮 比嘉繁助

清富 饒平知 道と
忠臣 比嘉徳榮 比嘉繁助

數共一箱金四百七十仙

地方代金引換小包料及手

製造所 バルカンセセ四七一

電話 三三一四八八七

電話 三三一四八八七